



北海道医療センターには28の診療科があります。その中で活躍する様々な診療科・診療部門が今取り組んでいる課題や最新の医療知識などをご紹介します。

【腎臓内科】

まずはお気軽にご質問ください！！

腎臓のスペシャリストが3名体制で対応します



腎臓は一度悪くなると回復することのない器官であることや、病気(ネフローゼ、腎炎など)の診断が難しいことから、連携先の医院の皆様も対応に苦慮されるシーンが多々あるかと思えます。

北海道医療センター 腎臓内科は、道内でも特に少ない腎臓学会専門医が3名所属する内科。

腎臓についてよくわからないことや、判断が困難な患者さまなどがお見えになった際は、お気軽にご質問・ご相談いただければと思います。

近年、慢性腎臓病 (CKD) が増えています。

慢性腎臓病とは、蛋白尿などの尿異常や、血液検査などで腎障害があることが明白であったり、eGFR(糸球体濾過量)が60ml/分/1.73m²未満の状態が3か月以上継続した状態を指します。昨今この病気を患う方が多くなっていますが、その原因は加齢、喫煙、過度の飲酒、ストレス、運動不足や生活習慣病など、様々な要因によるものと考えられています。慢性腎臓病は初期の自覚症状がないので、患者様がご自身で気付くことはほぼありません。貧血、むくみ、疲労感など原因不明の症状でお困りの患者様がいらした場合は、一度尿検査や採血をしていただき、数値に異常あった場合はまず、当院腎臓内科へお問い合わせください。

数値だけの判断は危険？

まずは、専門の腎臓内科医にお電話を！

尿や血液検査の結果、血清クレアチニンやeGFRの値が異常だということで、直ぐに人工透析の導入を検討するわけにはいきません。患者様の年齢やその他の合併症、家族のご意見等を総合的に踏まえて、本当に治療法として透析が必要なかどうか慎重に判断を行うことになります。そのため、判断にお困りのケースがございましたら、患者様が過剰に不安にならないためにも、事前に当院腎臓内科又は地域医療連携室にご相談いただき、必要に応じてご紹介をいただければ幸いです。

所属医師
柴崎 跡也 医長
宮本 兼玄 医師
伊藤 政典 医師
伊藤 一洋 医師 (リウマチ科)



伊藤 (政)

宮本

柴崎

伊藤 (一)